

一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会

第8回 学術大会

講演集

統一テーマ

「健康・スポーツ・教育の連携による幼少年期からの生きがい創り」

メインテーマ

「コロナ禍で加速する価値の多様化ー働き方と東京五輪に着目してー」

日時 令和4年2月27日（日）
開催方法 新型コロナウイルス感染拡大予防のためオンライン（リアルタイム）
形式による Web ミーティング（Zoom を使用）

主催 一般社団法人 日本健康・スポーツ教育学会
Japanese Society of Health & Sport Education
共催 日本ウェルネススポーツ大学
公益財団法人 日本幼少年体育協会

大会長挨拶

「コロナ禍で加速する価値の多様化 ー働き方と東京五輪に着目してー」

柴岡 信一郎

(一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会副理事長
日本ウェルネススポーツ大学副学長)



日頃より、一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会へのご理解、ご協力を賜りましてありがとうございます。本会は平成 27 年 3 月に設立し、そのミッションは健康創り、スポーツ創り、教育創りの 3 本の矢の相互関係を密にして、全ての人々の生涯にわたる生きがい創りに寄与することにあります。これを受けて、第 1 回大会より、統一テーマを「健康・スポーツ・教育の連携による幼少期からの生きがい創り」とし、その下で毎回、特有のメインテーマを設定してきました。

第7回(2021年)学術大会では、新型コロナウイルスの伝播により東京五輪が延期となり、with コロナ時代の対応として、ニューノーマル(新しい生活様式)への転換が求められることになったことから、本学会のミッション「生きがい創出」につながる新しい生活様式のあり方・仕方について、メインテーマ「コロナ禍におけるニューノーマル対策」の下、web ミーティング(zoom)により開催いたしました。

今回の第8回(2022年)学術大会は、「コロナ禍で加速する価値の多様化 ー働き方と東京五輪に着目してー」をメインテーマとして、2022年2月27日(日曜日)に、web ミーティング(zoom)により開催いたします。

働き方に関しては、就業場所や時間、通勤への考慮等、国民すべてが感染対策を念頭に置いたライフスタイルの多様性が求められ、働き方の考え方、価値観が変化してきました。

また、令和3年度に開催された東京五輪は、感染者数の変動の中、異例となる無観客で開催され、史上最大数のメダル獲得となりました。

そこで働き方に関しましては、特別講演「コロナ禍で加速する働き方改革と地域の展開 ～ワーケーションと健康・スポーツについて～」と題して、兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学准教授の高橋伸佳氏に講演をお願いいたしました。東京五輪に関しましては特別シンポジウム「コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの検証ー スポーツマネジャーの立場からー」と題しまして、日本ウェルネススポーツ大学専任講師の鈴木隆広氏にコーディネーターを、シンポジストとしてウェイトリフティング競技の立場から知念玲子氏、近代五種競技の立場から中村則幸氏、サーフィン競技の立場から井本公文氏をお願いいたしました。

この他、人々の生きがい創りに関わる口頭発表を通して、実り多い大会となりますよう、忌憚のないご意見を積極的にいただきたく、よろしくをお願いいたします。

末筆ながら、今回のご講演、シンポジウム、口頭発表いただく皆さん、大会準備および運営に携わっていただいた方々に心から感謝いたすとともに、大会の成功を心から祈念し、ご挨拶いたします。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

<プロフィール>

日本ウェルネススポーツ大学副学長、学校法人タイケン学園副理事長
博士(芸術学)、日本大学大学院博士課程修了

専門;コミュニケーション論、メディア論

著書;『報道写真と対外宣伝』(日本経済評論社)、

『プレゼンテーション概論』(朝倉書店)、

『はじめての「情報」「メディア」「コミュニケーション」「リテラシー』(技術評論社)、

『東京オリンピックの足跡をたどる 1940-2020 年』(タイケン株式会社)

他多数

目 次

大会長挨拶	1
学術大会 日程表	4
学術大会 プログラム	5
学術大会 運営・注意事項についてのご連絡	8
特別講演	10
特別シンポジウム	13
一般口演＜教育領域＞ルーム1(A)	22
一般口演＜健康・スポーツ領域＞ルーム2(B)	33
学術大会 役員	42

一般社団法人 日本健康・スポーツ教育学会 第8回学術大会
日程表・プログラム

開催日: 令和4年2月27日(日) Webミーティング形式(Zoom)

大会メインテーマ「コロナ禍で加速する価値の多様化－働き方と東京五輪に着目して－」				
Zoom ホスト: 日本ウェルネススポーツ大学東京				
12:40 12:55	メインルーム Zoom 入室許可 開始 (案内係: 川又(東京)、鈴木拓社(本部)、菌部(全体))			
13:00	開会の辞 (総合司会: 菌部 正人) 理事長 柴岡 三千夫 (日本ウェルネススポーツ大学 学長)			
13:15	大会長 挨拶 (座長: 鳥居 哲夫) 「コロナ禍で加速する価値の多様化－働き方と東京五輪に着目して－」 大会長 柴岡 信一郎 (日本ウェルネススポーツ大学 副学長)			
休憩1				
13:20	特別講演 (座長: 大津 一義) 「コロナ禍で加速する働き方改革と地域の展開 ～ワーケーションと健康・スポーツについて～」 演者 高橋 伸佳(兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学准教授、株式会社JTB総合研究所主席研究員・ヘルスツーリズム研究所長)			
14:10	休憩2			
14:15	特別シンポジウム (コーディネーター: 鈴木 隆広) 「コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの検証－スポーツ マネジャーの立場から－」 シンポジスト: 「ウェイトリフティングの視点から」 知念 令子 (ウェイトリフティングスポーツマネジャー、IF技術委員) 「近代五種競技の視点から」 中村 則幸 (近代五種競技スポーツマネジャー、日本近代五種協会競技運営委員) 「サーフィンスポーツの視点から」 井本 公文 (サーフィンスポーツマネジャー、日本サーフィン連盟副理事長)			
15:15	休憩3 (10分間)			
15:25	メインルーム 担当: 菌部、川又 ルーム1とルーム2の 入室の仕方の動画放映	<table border="1"> <tr> <td> ルーム1(A) 一般口演 【教育領域】 (座長: 近藤 卓、横山 典子) ・大竹 龍 ・温井 一裕 ・木村 一 </td> <td> ルーム2(B) 一般口演 【健康・スポーツ領域】 (座長: 富川力道、岩田 忠久) ・角田 弘子 ・平山 弘 ・平山 実 </td> </tr> </table>	ルーム1(A) 一般口演 【教育領域】 (座長: 近藤 卓、横山 典子) ・大竹 龍 ・温井 一裕 ・木村 一	ルーム2(B) 一般口演 【健康・スポーツ領域】 (座長: 富川力道、岩田 忠久) ・角田 弘子 ・平山 弘 ・平山 実
ルーム1(A) 一般口演 【教育領域】 (座長: 近藤 卓、横山 典子) ・大竹 龍 ・温井 一裕 ・木村 一	ルーム2(B) 一般口演 【健康・スポーツ領域】 (座長: 富川力道、岩田 忠久) ・角田 弘子 ・平山 弘 ・平山 実			
16:40	休憩4			
16:45	メインルーム 担当: 菌部、川又 ルーム1とルーム2の 入室の仕方の動画放映	<table border="1"> <tr> <td> 【教育領域】 ・齋藤 和江 ・鳥居 哲夫 </td> <td> 【健康・スポーツ領域】 ・渋井 二三男 </td> </tr> </table>	【教育領域】 ・齋藤 和江 ・鳥居 哲夫	【健康・スポーツ領域】 ・渋井 二三男
【教育領域】 ・齋藤 和江 ・鳥居 哲夫	【健康・スポーツ領域】 ・渋井 二三男			
17:35	休憩5			
17:40	閉会の辞 (総合司会: 菌部 正人) 大津 一義 (日本ウェルネススポーツ大学)			
17:50	終了			

※ 一般口演 1演題の時間 25分(発表20分、質疑応答5分)

第8回 学術大会 プログラム

(令和4年2月27日(日) Web ミーティング形式(Zoom))

【Zoom 入室許可 開始】

12:40-12:55

【開会式】

13:00-13:15

総合司会 菌部 正人(日本ウェルネススポーツ大学)

開会の辞 柴岡 三千夫(一般社団法人 日本健康・スポーツ教育学会 理事長
日本ウェルネススポーツ大学 学長)

大会長挨拶 「コロナ禍で加速する価値の多様化ー働き方と東京五輪に着目してー」
柴岡 信一郎(一般社団法人 日本健康・スポーツ教育学会 副理事長
日本ウェルネススポーツ大学 副学長)

座長 鳥居 哲夫(日本ウェルネススポーツ大学)

(13:15-13:20 休憩)

【特別講演】

13:20-14:10

「コロナ禍で加速する働き方改革と地域の展開～ワーケーションと健康・スポーツについて～」

演者 高橋 伸佳(芸術文化観光専門職大学)

座長 大津 一義(日本ウェルネススポーツ大学)

(14:10-14:15 休憩)

【特別シンポジウム】

14:15-15:15

「コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの検証ースポーツ マネジャーの 立場からー」

コーディネーター 鈴木 隆広(日本ウェルネススポーツ大学)

シンポジスト

「ウエイトリフティングの視点から」 知念 令子(IF 技術委員)

「近代五種競技の視点から」 中村 則幸(日本近代五種協会競技運営委員)

「サーフィンスポーツの視点から」 井本 公文(日本サーフィン連盟副理事長)

(15:15-15:25 休憩)

ルーム1(A) 15:25-17:35

【一般口演】

<教育領域>

座長 近藤 卓(日本ウェルネススポーツ大学)

横山 典子(日本ウェルネススポーツ大学)

15:25-15:50

A-1 食材に対する興味、関心を引き出す食育のありかた

～鮭の解体を通して～

○大竹 龍(ONE ROOF 大和東保育園)

15:50-16:15

A-2 緊急事態宣言下における小学生の走力に関する研究

○温井 一裕(日本ウェルネス高等学校 神保町キャンパス)

16:15-16:40

A-3 緊急事態宣言下における高校の授業方法に関する研究

○木村 一(日本ウェルネス高等学校 東京校)

(16:40～16:45 休憩)

16:45-17:10

A-4 体組成計を活用した保健指導

—寮生活を送る高校生への養護教諭としての取り組み—

○齋藤 和江(日本ウェルネス宮城高等学校)

17:10-17:35

A-5 生涯健康教育のカリキュラム開発

第1報 大学生等の健康知識習得状況

○鳥居 哲夫(日本ウェルネススポーツ大学)

ルーム2(B) 15:25-17:10

【一般口演】

<健康・スポーツ領域>

座長 富川 力道(日本ウェルネススポーツ大学)

岩田 忠久(日本ウェルネススポーツ大学)

15:25-15:50

B-1 持続可能な開発(SDGs)と環境観

○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

15:50-16:15

B-2 東京オリンピックにおけるスポーツ選手のSNS情報発信による新しい価値の創造

○平山 弘(阪南大学)

16:15-16:40

B-3 映像から学ぶアメリカ文化学習に関する一考察

—戦争と政治闘争を題材として—

○平山 実(日本ウェルネススポーツ大学)

(16:40~16:45 休憩)

16:45-17:10

B-4 行政・大学との共同開発事業における水治療法による健康増進とその評価

○渋井 二三男(日本ウェルネススポーツ大学)

【閉会式】

17:40-17:50

総合司会 藺部 正人(日本ウェルネススポーツ大学)

閉会の辞 大津 一義(日本ウェルネススポーツ大学)

17:50 終了

学術大会 運営・注意事項についてのご連絡

A. 参加前の注意事項

1. 参加者の皆様へ

1) Zoom を利用したご参加について

- ① 各自、事前に Zoom をご自身の端末にインストールのうえ、ご参加下さい。
※学会ホームページ「学術大会参加について」参照。
- ② 今回、プログラムで示しましたように、一般口演では Zoom のブレイクアウトルーム機能を使用し、ルーム 1 とルーム 2 に分かれて発表を行います。参加方法については、以下の YouTube 説明動画を参照ください。
YouTube 説明動画の URL : <https://youtu.be/xSWKpkP12N0>
当日も一般口演の間、メインルームでこの説明動画と同じものを流していますので、ご確認ください。
- ③ 参加時、ホスト側で参加者の皆さまの音声をミュートに設定させていただきます。発表の聴講時には、音声のミュートを解除しないようお願いいたします。
- ④ 質疑応答の時間になりましたら、座長から質問の呼びかけをいたします。質問のある方は、ビデオをオン、ミュートの解除の上、参加者側から「反応」「リアクション」「絵文字」を使用して合図を出して下さい。ホストより指名がありましたら、「所属」「名前」を伝えていただき、ご質問ください。
- ⑤ 時間内に質疑が終了しない場合は、座長の方から「時間ですので打ち切ります。」とお伝え頂きます。時間厳守を優先致しますのでご了承ください。
- ⑥ 質疑応答終了後、さらに質問がある方は、学会事務局へのメールにて対応いたしますので、事務局にご連絡ください。

2. 講演者・発表者・座長の方へ

1) 所要時間

- 特別講演・特別シンポジウム
特別講演の時間は 50 分（紹介等を含む）、特別シンポジウムの時間は 60 分（紹介等を含む）です。時間を厳守ください。
- 一般口演
一般口演の発表時間は 20 分、質疑応答は 5 分（計 25 分）です。口演終了の 1 分前、終了時、質疑応答終了時に座長より声かけを致しますので、時間を厳守願います。時間が大幅に延長した場合は、座長により、発表の打ち切りを致します。

2) Zoom を利用した発表者への注意事項

- ① 各自、事前に Zoom をご自身の端末にインストールのうえ、ご参加下さい。
※学会ホームページ「学術大会参加について」参照。
- ② 参加時、ホスト側で参加者の皆さまの音声をミュートに設定させていただきます。座長から紹介がありご自身の発表の時間になりましたら、ご自身で音声のミュートを解除するとともに、「画面の共有」をして、発表をお願いいたします。
- ③ パワーポイント等の資料等は、フルスクリーンモード等にして参加者が見やすいようご配慮ください。
- ④ 発表終了時には、次演者のために、必ず「画面の共有」を停止して下さい。
※学会ホームページ「学術大会参加について→Zoom インストール・使用手順」参照。

3) Zoom を利用した座長への注意事項

- ① Zoom への参加時、生活音等をカットする為、ホスト側で参加者全員の音声をミュートに設定させていただきます。座長は、Zoom のミュートをご自身で解除して頂き、通常の学会同様、演題名と発表者のお名前、所属の紹介をお願い致します。
- ② 質疑応答の際には、ビデオをオン、ミュートの解除を伝え、参加者側から「反応」「リアクション」「絵文字」を使用して合図を出して頂き、ホストより指名させていただきます。指名の際、Zoom の特性上多少の遅れがございます。
- ③ 時間内に質疑応答が終了しない場合には、発表者に「時間ですので打ち切ります。」とお伝え願います。あくまでも、時間厳守を優先してください。
- ④ 質疑応答終了後、さらに質問がある方は、「学会事務局へのメールで対応する」旨、お伝え願います。

※担当時間の進行は、座長に一任しておりますので、必ず時間内に終了するようにご協力をお願い致します。

B. 学会当日についての注意事項

- ・ 事前に学会の参加申込みを HP より行ってください。(全員、必須)
- ・ 当日の日程表・プログラムは、HP に掲載されています。
- ・ なるべく通信環境の良い場所での Zoom 操作をお願いします。
- ・ 発表者は、HP にて発表時間を確認して頂き、早めに Zoom ミーティングへのご参加をお願い致します。
- ・ 何らかの問題が発生した場合は、携帯電話でのご連絡をお願いします。こちらから連絡する場合もございますので、当日必ず通じる携帯電話番号をお知らせ下さい。
- ・ 画像停止や音声不備等、最悪のトラブルの際には、発表順を変更する可能性があります。
- ・ 問題発生の場合、学会事務局にご連絡をお願いします。

特別講演

13:20-14:10 (50分)

**「コロナ禍で加速する働き方改革と地域の展開
～ワーケーションと健康・スポーツについて～」**

演者 高橋 伸佳 (芸術文化観光専門職大学)

座長 大津 一義 (日本ウェルネススポーツ大学)

コロナ禍で加速する働き方改革と地域の展開 ～ワーケーションと健康・スポーツについて～

○高橋 伸佳^{*1}

^{*1}兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学准教授
株式会社 JTB 総合研究所主席研究員・ヘルスツーリズム研究所長

キーワード:働き方改革、ワーケーション、健康・スポーツ

【目的】

それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現することを目的に、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方などが盛り込まれた「働き方改革関連法」が 2019 年 4 月より順次施行された。また、情報通信技術の発展に伴い、在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイル勤務といった「テレワーク」という働き方が、新型コロナウイルス感染症(COVID19)の感染拡大によって広く普及することとなった。こうした動きと同時に、2020 年 7 月の政府の観光戦略実行推進会議において「観光振興策」として休暇と併用して旅先で仕事をするという「ワーケーション(ワークとバケーションによる造語)」が言及された。観光振興とともに、ワーケーションテレワークの一類型として位置付けられ(厚生労働省,2021)、働き方としても認められる方向となっている。

もともとテレワークは、通勤時間の削減、時間・場所の自由度の拡大といったメリットがある反面、座位姿勢がより長く続きやすいなど、健康面の課題を引き起こしているとの研究結果が存在する。長時間の座位姿勢は、生活習慣病である糖尿病、肥満、脂質異常症のリスクを高めるほか、がんのリスクを高める可能性も指摘されている(Ihira H, Sawada N et.al.,2020)。眼精疲労、肩凝り、腰痛などに悩む人が増加しており、これらの不定愁訴による業務遂行能力の低下も懸念される(Wendy A. SPINKS, 2004)。孤独感、ストレス、燃え尽き症候群など、テレワーク中のメンタルヘルスの不調も見逃せない(大矢幸世,岡徳之, 2019, Charlotte Huff,2021)。メンタル不調は、休職や退職につながりやすく、メンタルヘルスケアの視点も重要である。

このため、テレワークから派生する「ワーケーション」においては、自然環境等が充実するという環境が存在するという特殊性とともに、健康・スポーツを用いた取組みを概念や観光地の環境整備に盛り込んでいく必要があるとの仮説をもち、予備調査を実施することとした。

【方法】

筆者は、金森千絵(特定非営利活動日本ヘルスツーリズム振興機構エグゼクティブアナリスト)とともに、テレワークの現況、リモートワークに対する意識傾向、ワーケーションに関する意識・希望等を分析し、ヘルスケア要素を用いたワーケーションの可能性を探ることを目的に、2021 年2月 2 日(火)～2月 8 日(月)、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県在住の、20～49 歳の正規の社員・従業員でデスクワーク中心の仕事をする男女 300 名(男女各 50/各年代 100)を対象に、インターネットを通じて調査を実施した。

【結果および考察】

テレワーク経験者は72.0%に達し、テレワークは広く一般化していることが確認できた。経験者の86.0%は、「コロナ禍で初めて経験」と回答しており、コロナ禍がテレワークを一挙に普及させたと考えられるデータでもあった。テレワークの課題として「困った時など、気軽なコミュニケーションがとりにくい(50.2%)」、「外に出ないので運動不足になってしまう(48.4%)」、「オン/オフの切替が難しく、生活リズムが狂いがち(37.2%)」などが課題の上位にあがった。

一方、ワーケーション経験者は4%であった。「休暇中に仕事が追いかけてきたことはある(16%)」との回答もあった。ワーケーション意向者は、健康への気づかいをうかがわせる傾向が確認できた。「(健康に)もっと気をつかい、できることを始めたり増やしていきたい(63.5%)」、「(健康に)気をつかいたいと思うが、実行は難しい(32.5%)」と合計すると90%にのぼった。

ワーケーション期間中は、「自然のパワーと向き合うことによる心と身体の再生(57.9%)」、「ゆっくりと味わうスローフードの実践(38.9%)」、「ウオーキング、ヨガ、ストレッチなどの運動の日常化(37.3%)」など、健康・スポーツへの意向が高かった。

【結論】

2019年にワーケーション自治体協議会(WAJ)が設立され、会員自治体が201(1道22県178市町村)にのぼるなど、ワーケーションという新しい働き方を受け入れようとする観光地が急拡大している。観光庁では、「新たな旅のスタイル」ワーケーション&プレジャーという施策で事業支援を強化している。ただ、その環境整備の多くは通信環境の整備やコワーキングスペースの設置などハードが中心となっている。

本研究で明らかになったように、テレワークの推進による不定愁訴や健康課題はもちろんのこと、ワーケーションという働き方に関心を示す者の健康志向を鑑みれば、観光地でのワーケーションの環境整備には健康・スポーツのメニューを明確に組み込んでいく必要があるといえよう。また、送り手となる企業は健康経営が求められている。この点を鑑みても、ワーケーション推進には健康・スポーツへの観点を明確に盛り込んでいくことが求められている。

参考文献

高橋伸佳、金森千絵「健康社会をめざす日本ならではのヘルスケア型ワーケーション」JHTO 研究レポート、特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興委機構、2021

特別シンポジウム

14:15-15:15 (60分)

「コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの検証 ースポーツ マネジャーの立場からー」

コーディネーター 鈴木 隆広(日本ウェルネススポーツ大学)

シンポジスト

「ウエイトリフティングの視点から」

知念 令子 (IF 技術委員)

「近代五種競技の視点から」

中村 則幸 (日本近代五種協会競技運営委員)

「サーフィンスポーツの視点から」

井本 公文 (日本サーフィン連盟副理事長)

コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの検証 ～スポーツマネジャーの立場から～

○鈴木 隆広^{*1}、知念 令子^{*2}、中村 則幸^{*3}、井本 公文^{*4}

^{*1}日本ウェルネススポーツ大学、^{*2}公益社団法人日本ウエイトリフティング協会

^{*3}公益社団法人日本近代五種協会、^{*4}一般社団法人日本サーフィン連盟

キーワード:オリンピック・パラリンピック、コロナ禍での開催、スポーツマネジャー

【目的】

史上初の1年延期を経て東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催された。新型コロナウイルス感染拡大により、無観客での異例の開催となったオリンピック・パラリンピックである。オリンピック開催中も新規感染者が増加するなど緊急事態宣言下で実施されたオリンピックであるが、競技の面から見たオリンピックはどのようなものだったのか。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会で各競技の中心的役割を担ったスポーツマネジャーの立場から3名の方に登壇していただき感染対策も含め準備段階、実施段階そして結果等について検証するとともに今後の課題について討論する。

1 スポーツマネジャーとは

東京2020大会を開催するにあたり国際オリンピック委員会(IOC)、東京都、日本オリンピック委員会の三者で開催都市契約を締結している。この開催都市契約(HCC)大会運営要件のHCCでは大会運営要件、競技会場及び練習会場に関する要件、国際競技連盟(IF)サービスに関する要件、競技大会に関する要件、競技用備品に関する要件などが盛り込まれている。このうち競技大会に関する要件の中にスポーツマネジャーの任命及び承認が含まれている。

オリンピックプログラムの各競技について、スポーツマネジャーは、IFの要件、オリンピック憲章、HCC一原則に従った、競技と練習の計画策定及び実施に責任を負うものとされている。組織委員会(OCOG)は、全てのスポーツマネジャー候補について、必ず当該IFの承認を受けるようにするとともに、当該競技の個々の種別についても経験豊富なマネジャーを採用することとなっている。

スポーツマネジャーの任命には、強力な組織及びマネジメントスキル、それぞれの競技での経験、できれば国際競技イベントの経験、各IFとの定着した関係、経験豊富な人物を適切に選ぶことが必要である。言語能力も、IFによっては、一部の競技では利点となる可能性もあることから少なくとも英語は必須であるといえる。

理想のスポーツマネジャー候補を探すときの目標は、大会を可能な限り最高の水準で行いながら、高度な訓練を受けた人材とともに競技の人的レガシーを残すことである。開催国で最適な候補者を見つけられないというのは、一部の競技で起こり得ることであるが、その場合には、組織委員会はIFと協議して国外から適任者を検討することになる。

スポーツマネジャーの任命は、担当する大会の前にオリンピックの舞台を直接体験できるようにするため、遅くとも大会の4年半前には全員を任命するべきであるとされている。

2 オリンピック・パラリンピック延期までの経緯

東京2020大会を翌年に控えた2019年12月に中国・武漢で原因不明の肺炎が複数報告された。翌年、開催年を迎えた2020年1月16日に新型コロナウイルス感染者が国内で初めて確認され、3月11日には世界保健機関(WHO)がパンデミックを宣言した。その翌日12日に聖火採火式が行われ20日に松島に聖火が到着した。

3月22日に大会組織委員会森会長(当時)とIOCバツハ会長による電話会談が行われ24日の安倍総理(当時)、森会長、IOCバツハ会長、小池都知事らによる電話会談により、アスリート及び観客の安心・安全を確保することが最も重要であり、世界の状況が継続的に悪化する中、塩基とせざるを得ない旨一致し大会開催「1年程度延期」を発表した。そして、3月30日にオリンピックは2021年7月23日から8月8日、パラリンピックは2021年8月24日から9月5日とする新日程が森会長、IOCバツハ会長、小池都知事、橋本オリンピック・パラリンピック担当大臣(当時)で合意された。

その後、新型コロナウイルス感染症は拡大し、2020年4月7日から5月25日まで緊急事態宣言が発せられた。これが最初の緊急事態宣言である。2回目の緊急事態宣言が発出されたのは2021年1月8日から3月21日であり、4月25日から6月20日が3回目の緊急事態宣言である。3回目の緊急事態宣言下である5月21日にはコーツIOC調整委員長が「緊急事態宣言下でも開催可能」と発言し、翌日22日にはバツハIOC会長が「五輪のためには犠牲を払う必要がある」などと発言し物議を醸した。26日の朝日新聞は「夏の東京五輪中止の決断を首相に求める」と題して社説に掲載した。

3回目の緊急事態宣言明けから1ヶ月も経たない7月12日に4回目となる緊急事態宣言が発出され9月30日までの期間とされた。つまり、コーツIOC調整委員長の「緊急事態宣言下でも開催可能」発言が実際のものとなり、4回目の緊急事態宣言中の7月23日にオリンピックが開幕し、同じく9月5日にパラリンピックが閉幕した。

3 コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック

3回目の緊急事態宣言が明けた翌日の6月21日に組織委員会は、1万人を上限とする有観客の方針を発表したが、コロナ禍でのオリンピック・パラリンピックの開催となり7月8日には1都3県での開催は無観客開催とすることを5者協議で決定した。

この無観客決定に至るまでは、2020年9月4日から組織委員会は内閣官房・東京都等とともに7回もの「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」に参加してコロナ対策について検討を重ねてきた。そして、プレイブック第1版を2月3日から公表し、4月28日から第2版、6月15日から第3版を公表した。

このほか新型コロナ対策として、大会関係者への新型コロナワクチン接種、発熱外来の体制整備、各参加者に対する検査、アスリート等に対する再検査などのほか出入国、選手村、輸送等あらゆる場所での対策を講じて開催した。

今回は、コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックの是非を問うものではなく、それぞれの競技の専門家であるスポーツマネジャーの立場から誰もが経験のないコロナ禍でのオリンピックを今後の課題について、トップアスリートや競技の面から討論する。

○ウエイトリフティングの視点から

1 ウエイトリフティングの競技紹介(特徴)

ウエイトリフティング競技はいかに重いバーベルを挙上できるかを競う屋内競技であり、「スナッチ」と「クリーン&ジャーク」の二種目から構成されている。競技者はフィールドオブプレイ(FOP)に設置された競技用ステージにおいて各種目で3回ずつ試技を行い、順位はそれぞれのベスト重量(kg)を合計した「トータル」によって決定される。オリンピックでは、第1回アテネ1896大会から実施され、アントワープ1920大会からは体重別の階級が設定され、シドニー2000大会からは女子が参加するようになった。

競技者は入国・選手村入村後、競技会場に併設された練習会場において競技前日または前々日まで調整練習を行う。多くの競技者が減量を行うため、会場にはサウナが設置されている。競技当日は競技開始2時間前から検量が行われる。競技者は検量後すみやかに栄養補給を行う必要があることから運営側はアスリートラウンジにおいてホットミールを提供する。検量と食事を済ませた競技者はマッサージベッドが設置されたアスリートレストエリアで約40分から1時間過ぎた後、競技用ステージに隣接しバックボードで仕切られたウォーミングアップ場に向かう。ウォーミング用アッププラットフォームは競技者一名に対し一台が与えられ、自分の試技順が回ってくるまでに軽い重量から徐々にウォーミングアップを行う。重量の選択には他者との間で駆け引きがあり、重量申告に係るコーチの作戦も勝敗のための重要な要素となる。

2 スポーツマネジャー任命の経緯

スポーツマネジャーの採用にあたり(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(組織委)はまず関連の国内競技団体(NF)から推薦を募った。国際ウエイトリフティング連盟(IWF)において知念が2005年より技術委員を、またアジアウエイトリフティング連盟において2011年より理事・技術委員長を務めていることもあり、NFからの推薦を受け、同職に任命されるに至った。

3 IFとの調整

国際オリンピック委員会(IOC)記載のOlympic Games Guideには、スポーツマネジャーに必要とされるスキルと経験としてマネジメントスキル、競技または国際競技イベントにおける経験、各IFとの定着した関係等が挙げられており、知念は幸い経験およびIFとの良好な関係を有していた。しかし延期に伴う大会の簡素化により、費用削減を目的とし撤去する予定であった既存会場FOP上の既存構築物を残置する必要が生じ、競技者の安全面における懸念もあったことからIFとの調整以前に組織委内における局間の戦略を必要とした。最終的にはIF側からも歩み寄りの提案を受け、簡素化の成功に至った。

一方IWFには2020年1月にスキヤンダルが生じ、IOCからガバナンス問題の指摘を受けていた。そのような状況下、IF側の組織委との調整役であるIF Delegateの交代が2020年7月に

生じたり、大会直前まで International Technical Official (ITO) の交代や来日するはずの IF 理事のキャンセル等が相次いだりしたことから、他 IF にはあまり生じることのない事務的な手間に長時間を費やすこととなった。

4 コロナ禍での競技運営

大会の簡素化に係る調整が一段落した 2020 年 10 月頃より各競技・競技会場においてはコロナ対策の構築が本格化し、各競技チームはアスリートジャーニーや TO のジャーニーに則しながら会場のエリアごとの対策を考えた。対策の内容については頻繁に IF に確認をとり、また NF には情報提供を行った。2021 年 1 月からは必要な物品の積算と見直しを繰り返し、3 月中旬にはその作業を完了させた。

2021 年 4 月になっても先行きが見えない中、観客や若年層のエンゲージメントに関し、過去大会を通じ初の試みとなる予定であったエスコートキッズの計画や、実際にバーベルに触れたりフットブースを設けたりする「観客の体験」コーナーの計画は断念しなければならなかった。単なるコロナ対策のみならず「濃厚接触者や陽性者の扱い」というオプション B、C の構築にも時間が割かれた。

運営チームには海外からのボランティアを複数名受け入れる予定であったが、それを断念せざるを得ず、大会直前に海外から合流できたのは 14 日間の隔離を経た 3 名の非常勤職員のみとなった。政府が水際対策を講ずる中、彼らは「特別入国」の扱いとなるため、政府提出の書類作成には手間がかかり、また補食や生活必需品の差し入れなども必要とされた。「特別入国」扱いは職員のみならず来日するすべての選手・チーム関係者、ITO・IF 関係者、メディア等が対象となる。7 月 1 日以降に来日する関係者には隔離免除措置が講じられたが、代わりに来日後の居場所を含む厳格な行動計画書の記載が求められ、ITO 及び IF 関係者の計画書記載に責任のある IF の事務フォローにも長時間を費やした。

選手村開村は 7 月 13 日で、その翌日から練習可能となる予定であったが、IOC は競技初日 5 日前から入村可能とする「5 日前ルール」を策定したため、本競技の練習初日は 7 月 19 日となった。

練習開始以降、単なるコロナ対策を実行するのみとはいかず、やはり濃厚接触に認定された選手及びコーチ(計 2 か国: 競技者 1 名・コーチ 4 名)の会場受け入れ業務が生じた。それは組織委内のチーム付職員、会場マネジメント、輸送、警備等のチームと電話や無線を駆使して連携するものであった。

競技会場のアスリート動線における対策のキーポイントには①飲食関連(飲料・補食およびホットミール提供要領、ホットミールを提供するラウンジのしつらえ等)、②共通備品関連(サウナ、マッサージベッド、什器、競技備品、炭酸マグネシウム等)、③密の回避(練習に来た競技者のサウナ使用は予約制、バスの到着・出発時刻と練習時間の開始・終了時刻とのギャップを過ごす空間の創設、練習会場入退場口の区別)の各要素が挙げられ、練習・競技以外でのマスク着用の徹底はもちろんのこと、要所要所に手指消毒スタンドとそれをコントロールする要員を配置し、また備品に関しては清掃・消毒を徹底した。練習(グループ別交代制)はなるべく長時間練習してもらえるようセッション間にインターバルを設けないのが通常であるが、東京大会においてはセッ

ション間に 20 分の器具の清掃・消毒時間を設け、その間の選手・コーチの練習エリア立ち入りを禁じた。不満が生じないようバスが早く到着しても競技者を待たせるためのスペースを入場口側に、練習後バスを待つためのスペースを退場口側に設けたことから、本来は 50 台で計画していた練習用プラットフォームを 40 台に減じる必要性が生じた。

バーベルを握る際に滑り止めとして使用する炭酸マグネシウムについては、練習会場およびウォーミングアップ場のそれぞれで個別配布し、競技用ステージ上のみ共通の使用を許可した。また競技用ステージにおいては一試技毎に競技者が代わるため、器具係は試技が終わる毎にバーの消毒を行った。

5 今後の展望

東京大会後、大陸選手権 6 大会、ユースおよびシニアの世界選手権が行われたが、いずれもコロナは発生していない。2021 年 12 月に行われた(シニア)世界選手権では IWF のコロナ対策ガイドラインが東京大会に準じて改訂され、全関係者は 5 日に 1 回の抗原検査を実施した。IF・ホテル・各チームのそれぞれにコロナ対策担当者を設置し、スマートフォンのアプリを用い定期連絡するなどの応用も見られた。今後、対策の国際的な情報共有を行い、安全な大会開催のための対策をアップデートし続けることが重要であろう。

○近代五種競技の視点から

1 近代五種の競技紹介(特徴)

近代五種競技は、近代オリンピックの父と呼ばれている、ピエール・ド・クーベルタン男爵により創設された競技で、1912 年ストックホルム大会から実施されている。

競技は、水泳、フェンシング、馬術、レーザーラン(射撃とランニング)の 5 種目で構成され、総合力を競う複合競技である。2000 年シドニー大会からは女子が正式種目となり現在に至っている。

東京大会では、5 種目すべてが東京スタジアム内で行われた。

競技が始まった当初は、1 日 1 種目で 5 日間かけて行われていたが、オリンピックの歴史と共にルール改正が行われ、東京大会ではオリンピック史上初、1 日で 5 種目が実施された。

2 スポーツマネジャー任命の経緯

2015 年 12 月、(公財)日本オリンピック委員会を通じて、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から、(公社)日本近代五種協会に対し、スポーツマネジャー選任の打診があった。協会内の人材で国際近代五種連合(本競技の IF)役員等、国際的な活躍をする人材がいない中で、競技に関する知識に精通するだけでなく、国内競技運営・開催準備の中核を担っている人材から人選を行い、IF 本部研修や国際大会の実務研修等を経た後、IF の承認を得てスポーツマネジャーが決定した。

3 IF との調整

2012 年ロンドンオリンピック、2016 年リオデジャネイロオリンピックの 2 大会において、5 種目を 1 か所の会場で行ういわゆる「ペンタスロンスタジアム」という概念に基づく開催が実現していなかったため、それをまさに東京大会で実現させるため、2016 年のスポーツマネジャー就任直後から

綿密な IF との調整が行われた。

ペンタスロンスタジアムでの開催はオリンピック史上初となるため、過去大会と違う様々な部分において、IF と組織委員会の調整が多岐にわたった。

様々な調整の中で、最も難航したのは、東京スタジアム内にプールを設置することであった。オリンピックでは、これまで 50m プール(長水路)で水泳が行われていたが、東京スタジアム内に他の 4 種目の競技設備とバランスよくプールを設置するためには、25m プール(短水路)にすることが不可欠であった。調整は困難を極めたが、IF との薄氷を踏むような調整の末、実現の運びとなった。

4 コロナ禍での競技運営

(1) 準備段階

2020 年春に延期が決定し、7 月からプレイブックの製作が組織委員会内で始まり、コロナ下でのオリンピック開催を前提として、準備が進められていくこととなった。このような状況により、様々な分野で見直しが行われ、特に選手団に安心安全な環境を提供しつつ、負担を強いることが無いように配慮した調整に多くの労力が割かれた。

(2) 実施段階

実施段階では、入国する関係者が 14 日間ホテルで待機する際、必要な物資を購入して届けたり、こまめに連絡を取る等、精神的な負担が大きくなるように配慮した。競技運営時は、スタッフに対し規定に応じて PCR 検査を実施した。国内審判招集初日の検査で、ワクチンを 2 回接種し交代がある者 1 名が陽性となり、直ちに所要の措置を行い、感染の拡大は見られなかった。

また、選手団のコーチ 1 名が入国後の PCR 検査で陽性となり(入国時の検査は陰性)、選手を含めた濃厚接触者が出たが、輸送を別車両とし、競技場における動線を分離する等の措置を取り、滞りなく競技を終了することができた。

5 今後の展望

東京大会終了後、IF は 2028 年ロサンゼルス大会から、5 種目のうち馬術に代わる別な種目の導入することを発表した。100 年以上の歴史を重ねている近代五種競技が、さらなる発展を遂げ、5 大陸で等しく普及し、オリンピックで観客を魅了する好機であると感じている。

○サーフィンの視点から

1 サーフィンの競技紹介(特徴)

若い世代に関心が高く活気あふれる競技をオリンピックのプログラムに加えたいと、東京 2020 組織委員会が追加種目として提案した 5 競技の 1 つ。東京 2020 大会で新たに採用されることになった。競技が行われるのは自然の海。波の状態は、風の強さや風向き、潮の干満などによって変わる。同じ波は 2 つとないため、自然の状況を見極めながら選手が互いに高度なライディングテクニックを競うのがサーフィン競技である。

オリンピックで 100 年前の水泳金メダリスト、デューク・カハナモク(アメリカ)は、近代サーフィンの父と呼ばれ、表彰台の上でサーフィンがオリンピック競技になってほしいと語り、その種をまい

た。この初めてのオリンピック サーフィン競技では、初の試みとなる「オリンピック・サーフィン・フェスティバル」を競技と共に開催し、サーフィンカルチャーも同時に発信。サーファーは、波がない「波待ち」の間に音楽やファッションを楽しむのが通例のため、アーティストによるライブパフォーマンス、サーフィンの歴史がわかるミュージアム、ワークショップ、フードやグッズの販売などが行われる予定であった。

2 スポーツマネジャー任命の経緯

初採用のオリンピック競技ということから、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(組織委)とIF、NFによる協議の上、IFの推薦によって決定された。井本は、2015年に行われた東京大会での追加種目選考である26団体によるプレゼンテーションにIFと共に参加し、翌年オリンピック追加競技の最終決定を受けた。NF 日本代表チームスタッフとして多くのIF 国際大会への参加経験、国内大会運営経験やIF 国際大会の知識があることからIFから推薦を受け決定した。

3 IFとの調整

IF及びNFは、日本での国際大会の経験が少なかった為、オリンピック前の経験を積むためのテスト大会となる世界選手権を日本で開催し、競技運営や競技ルールの策定など実戦形式で調整を行った。自然波で競技を行うことから、競技に適した波の検証や競技時間の配分など、競技と自然との調和を考慮した競技日程の決定、審判棟などの構築物の配置や設計、新たなオリンピック競技ルールなど調整を行った。特に競技日程は波の検証や運営予算も含め数年かけて決定した経緯がある。いつ波が来ていつ競技を行うのか、世界への配信時間の検証、競技日程の変更プロセス、その判断基準となるコンティンジェンシープランの策定にも時間を要した。また他の競技より、競技日程(予備日)が多い為、観客に楽しんで頂けるフェスティバルを競技と同時に開催する予定であった。過去のオリンピックでは行った事のない、競技と共催するフェスティバルの是非や企画立案など、IFのみならずIOC、組織委と多くの議論を重ねた。

初めての競技であるが故、予算や日本国内の事情、競技特性など多岐にわたる調整を行った。

4 コロナ禍での競技運営

サーフィン競技は屋外で行われるため、競技ルール等の大勢には影響がなかったが、競技運営に関連する主な変更点を4点、直接的に競技運営と関連がないが苦労した点を以下に述べたい。

(1) 砂浜動線と国内技術役員(NTO)の役割

無観客開催となったことにより、選手と観客との近さやサーフィン・フェスティバル開催が皆無・中止となり、サーフィン大会らしい「盛り上がり」に欠けるものとなった。通常、観客は選手にサインを求めたり、ハイタッチを行ったりするため、選手を観客から守るべく国内技術役員(NTO)9名を配置したが、本大会では、主に選手の安全を監視する役目へと変更した。また、メディアも砂浜を行き来できるが、選手との接触がないよう、限られたエリアでの撮影とされた。



【コロナ前の大会の様子】¹



【コロナ下のオリンピック会場の様子】²

¹ International Surfing Association, Photo | Sean Evans

² International Surfing Association, Photo: | Pablo Jimenez

(2) アスリートラウンジ滞在時間の制限

サーフィンの大会は都市から離れた場所が会場となるため、大会会場での滞在時間が長時間となる。そのため、ソファ等を多く配置しリラックスできるエリアとするが、本大会では、席やコンディショニングベッド等を間引いて配置。また、滞在時間をなるべく少なくするよう競技別コロナ対策マニュアルでのルール策定や注意喚起を行った。

(3) 練習日程の縮小とサーフボードリペアの前倒し

サーフィン大会では、会場により波の質が異なるため練習を一週間程度前から行うのが通例である。しかしコロナ対策のため公式練習は競技開始の5日前と全競技が定義づけられ、本競技では選手は3日前からしか会場入り及び海での練習ができなかった。輸送中の破損や会場での破損したボードが続出し、NTO が会場入りしたその日からリペアを稼働せざるを得なかった。

(4) コロナ感染による選手の欠場

一名の選手が、出国時に陽性が発覚。急遽、補欠選手への声掛けが行われたが、試合開始に間に合わなかったため、一名減でのフォーマットとなった。ライクラ(ゼッケン)等の対応は、予め欠場が出た際のために定めたルール(ORIS 規定)に則りIFと調整できたため、大きな混乱は生じなかった。

(5) 競技運営以外での問題点

選手村外宿泊の選手が多く、徒歩での会場入りが想定されるなど動線に問題があった。このため、アスリートラウンジ周辺に選手駐車場を設置し、動線が他ステークホルダーと交わらないよう工夫した。

5 今後の展望

サーフィン競技は、若い世代の関心の高さからオリンピックを活気づけることが求められた。無観客開催となりフェスティバルを開催できなかったものの、自然で行う競技のダイナミックさからオリンピックの盛り上げに寄与できた。今後、パリ、ロサンゼルス、ブリスベン大会とサーフィン強豪国でのオリンピック開催が決定しており、サーフィンもオリンピック競技として存続し、さらに盛り上げて寄与して行きたい。

ルーム 1 (A)

一般口演 【教育領域】

15:25-17:35

座長 近藤 卓(日本ウェルネススポーツ大学)
横山 典子(日本ウェルネススポーツ大学)

- A-1 食材に対する興味、関心を引き出す食育のありかた
～鮭の解体を通して～
 - 大竹 龍(ONE ROOF 大和東保育園)
- A-2 緊急事態宣言下における小学生の走力に関する研究
 - 温井 一裕(日本ウェルネス高等学校 神保町キャンパス)
- A-3 緊急事態宣言下における高校の授業方法に関する研究
 - 木村 一(日本ウェルネス高等学校 東京校)
- A-4 体組成計を活用した保健指導
 - －寮生活を送る高校生への養護教諭としての取り組み－
 - 齋藤 和江(日本ウェルネス宮城高等学校)
- A-5 生涯健康教育のカリキュラム開発
 - 第1報 大学生等の健康知識習得状況
 - 鳥居 哲夫(日本ウェルネススポーツ大学)

A-1 食材に対する興味、関心を引き出す食育のありかた ～鮭の解体を通して～

○大竹 龍^{*1}、山口 智之^{*2}

^{*1}ONE ROOF 大和東保育園、^{*2} 日本ウェルネススポーツ大学

キーワード: 食育、食材、食の外部化

【目的】

現代は、時代の変化により、調理に用いる食材は、レトルトやカットされたものが多くなっている。いわゆる食の外部化¹⁾ 傾向にあり、食材の本来の形状を知る機会や、食材が何処で取れるのかを知る機会の希薄化に繋がっている。また、売れ残りや食べ残しによる食品ロスなども食の課題とされている¹⁾。これらの課題解決に向けて、子どもたちの食生活の改善や食意識・知識の向上を目的とした食育が求められている。食育とは「食を営む」力を養うことであり²⁾、特に幼児を対象にする場合は「食」、中でもその媒体となる食材に対する興味関心を引き出すことが大切である。

大和東保育園では、この点を重視するとともに、食材の本来の形状を知る機会の希薄化や食品ロスの課題に対処するために、鮭の解体実演を試みた。

その成果と課題について報告し、幼児を対象にした食育のあり方に資することにする。

【方法】

1. 対象: 大和東保育園の 4・5 歳児 (40 名)
2. 日時、場所: 2021 年 11 月 25 日 9 時 30 分～10 時 00、大和東保育園幼児室
3. 鮭の解体実演者: 園長(筆者／調理師資格取得者)、他職員 2 名が助手を務める。
4. 鮭の解体実演の説明
 - 1) 事前の説明(食材の大切さ)
 - ・世界では、食料飢餓で食事を食べたくても食べられない子どもたちがたくさんいること
 - ・食べ物の命をいただいているから「いただきます」ということ
 - ・売れ残りや食べ残しによる「食品ロス」は、日本人一人あたり 1 年間で 48 kg 毎日お碗一杯分のご飯を捨てていること
 - ・食べ物を粗末にせず、最後まで残さずに食べ感謝の気持ちを大事にすること
 - ・鮭の一生、鮭の雄と雌の違い
 - 2) 解体中の説明
 - ・エラで呼吸をしていること
 - ・「いくら」は鮭の卵であり、ここから鮭の赤ちゃんが生まれること
5. 対象者の反応の把握の仕方
 - 1) 解体実演の様子を動画で撮影。
 - 2) 動画に記録されていた音声と、解体実演時の子どもたちとのやり取りの記憶をもとに、筆者と、助手を務めた職員で対象者の反応をまとめた。

6. 衛生面に対する配慮

使用する器具(まな板、ボール、サランラップ)は消毒し使用した。

7. 安全面に対する配慮

刃物を使用するので、子どもが触れることのないよう活動開始前に注意点を説明し、解体スペースと見学スペースを2メートル程離れた。

8. 解体の様子を動画撮影→編集のうえ、保育園を運営する法人のInstagramにアップロードして、子どもたちの貴重な経験を保護者とシェアした。

【結果・考察】

1. 鮭の解体中、血を見て怖がる子どもがいた。これは想定外の反応であり、事前に説明して驚きを軽減させたり、無理して見続けなくても良いことを伝えたりして対応するべきであった。
2. 子どもたちから「さけてこんなに大きいんだね」と驚く声が聞こえた。加工前の食材本来の姿を見せること、解体される過程で、次々に形を変え最終的に店で売られている形である「切り身」になることを知ることにより、食の外部化がもたらす問題の解決に繋がったと窺える。
3. 全体を通して全員がとても興味深そうに鮭の解体を見学していた。特に「いくら」を見せると「ツブツブしている」「たくさんいくらが入ってる」と興奮する様子が見られた。このことから食材に対する興味・関心を引き出すことに繋がったと言える。
4. 「いただきます」の意味、食品ロスの問題に関しては、事前説明は行ったものの解体中に理解を確認するアプローチができていなかった。食育的效果を実証するためには、解体中の確認を行うべきであった。

【今後の課題】

1. 鮭は日常の食育の食材として取り入れにくいので、定期的に食育の教材として取り入れやすいサンマ、サバなど他の魚の解体なども取り入れていく。
2. 野菜の種まき、水やり、収穫を通して、野菜の成長過程を観察させることにより、鮭とは別の視点から食材に対する興味・関心を引き出す。
3. 食べるとは、食材の命をいただいていることを繰り返し伝え、子どもたちの「いただきます」の挨拶にどのような変化があったのかを観察する。
4. 食材に実際に触れながらの調理体験や自分たちで作った料理を食べることにより、食材や調理工程に対する興味・関心を引き出す。
5. バイキング形式の食事を通して、食品ロス、食への意欲を高め、自分で食べられる分量を考えるように促す。
6. 自分で器に「よそう」ことや、配膳を通して作ってくれた人に対する感謝の気持ちを養う。
7. 食事の喫食量がどのように変わったかなど活動後の変化を記録し考察する。
8. 異年齢での食事を通して、社会性の発達を促す。

【参考文献】

- 1)資格ガイド調理師:2015年3月:成美堂出版
- 2)楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～:2004年3月:厚生労働省

A-2 緊急事態宣言下における小学生の走力に関する研究

○温井 一裕^{*1}

^{*1}日本ウェルネス高等学校 神保町キャンパス

キーワード: 行動制限、走力、指導者

【主 旨】

本件は、2020年4月7日以降現在までコロナウィルスによる緊急事態宣言が断続的に発せられる中、感染拡大防止のため学校等においては様々な対策が実施され、また外出自粛等により屋外で体を動かすことが難しい日々が続いた。このような状況の中、緊急事態宣言が発せられる以前の2019年に比べ2020、2021年がその経過とともに小学生の体力はどのように変化したのか、定量評価のできる走力に着目し、東京都陸上競技協会の協力を得てデータを分析したものである。

【本 論】

(1) 前 提

使用データは、毎年5月と10月の2回、東京都陸上競技協会が主催する大会名「ジュニアチャレンジカップ」^{*1}において各年とも10月に開催された男女別1、2年生50m、3、4年生60m、5、6年生100m競走の計測記録(単位「秒」、100分の1秒まで計測表示)である。理由は、2020年4月7日に初の緊急事態宣言が発令されて約6か月が経過、この間外出自粛等で屋外での活動が制限されていたことにより、これ以前と以降の体力(走力)差を見るためとした。また、考察に当っては各学年男女別のデータを集計し平均値、標準偏差で比較することとした。

(2) 結 果

データの平均、標準偏差は次のとおりである。

	1年生 50m(単位:秒)				2年生 50m			
	男		女		男		女	
年	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差
2019	9.61/42	0.57	9.46/27	0.33	9.01/66	0.59	9.22/55	0.49
2020	9.59/51	0.78	9.65/48	0.58	9.11/75	0.62	9.20/57	0.53
2021	10.00/93	0.83	9.84/57	0.50	9.14/90	0.53	9.32/53	0.61
	3年生 60m				4年生 60m			
	男		女		男		女	
年	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差
2019	10.23/101	0.57	10.47/72	0.58	9.87/118	0.62	10.05/72	0.74
2020	10.33/94	0.67	10.49/92	0.66	10.04/133	0.61	10.01/98	0.58
2021	10.37/102	0.68	10.54/71	0.68	9.86/98	0.67	10.01/72	0.70
	5年生 100m				6年生 100m			
	男		女		男		女	
年	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差	平均/データ数	標準偏差
2019	14.88/74	0.87	15.17/79	0.76	14.10/81	0.91	14.65/81	0.91
2020	15.64/138	1.01	15.58/116	0.93	14.56/129	1.04	14.97/120	0.89
2021	15.70/113	1.10	15.59/87	0.96	14.77/94	1.02	15.13/90	0.98

※1:本大会は、小学生を対象とし毎回述べ 2000 人以上が参加する大会である。また、参加者のほとんどが地域型スポーツクラブに所属しているのも特徴である。

(3) 考 察

ア 1,2 年生

1年生男、女の 2020 年は、2019 年とほぼ変わらない。これは、①小学校に入学して約半年であり、また 50m と距離が短いため緊急事態宣言前に動き回った体力が残っていた。②小学校 1 年生はプレゴールデンエイジのほぼ中期段階にあり、筋力も強くない段階である。したがって、6 か月程度屋外での運動を制限されていたとしても大きな変化はないものとする。一方、2021 年は 2020 年 10 月から 2021 年 10 月まで緊急事態宣言が 3 回発令された。これに伴い屋外での活動は大きく制限された。この影響を受け、平均値は低下するとともに、個人毎に練習機会(量)に差が出たため標準偏差は大きくなったものとする。しかしながら、2年生男、女は、平均値及び標準偏差とも 1 年生ほどの変化はなく微妙に低下しているにとどまっている。これは、①1 年生に比べある程度筋力がついてきていること。②1 年生に比べ、ある程度競技に対する意識が高まってきていること。などから競技距離が 50m と短いこともあり、少ない練習機会(量)でもある程度走力の回復が可能であったのではないかと考える。

イ 3,4 年生

1,2 年生に比べ競技距離は 10m 伸び、60m である。男、女とも平均値及び標準偏差とも 2019 年に比べ変化は少なく微妙に低下しているにとどまっている。これは、①2 年生と同様にある程度筋力がついてきていること。②学年とともに向上する競技に対する意識が、少ない練習機会(量)であってもある程度走力の回復が可能であったのではないかと考える。

ウ 5,6 年生

男女とも 2020 年から平均値は顕著に低下した。一方、標準偏差に大きな変化はない。これは、競技距離が 100m となり、①他の学年と異なりそれなりの走力を求められる距離であること。②当該競技に出場する児童はそれなりに専門性を持って練習していること。③これに伴い練習内容も本格化する時期でもあること。から緊急事態宣言等の発令により練習内容等に大きな影響を与えたことが主因と考えられる。また、標準偏差に大きな変化が無いのは、全体が同じような影響を受けたためと考えられる。

【結 言】

今回の分析で、2019 年に比べ 2020 年以降練習環境が大きく変化する中、走力の変化の特徴がある程度把握できたものとする。一方、5,6 年生は第二次成長期に入り、心と身体のバランスが不安定な時期でもあり、またオスグット病やシーバー病などが多発する時期でもある。記録が下落傾向にある中、外出制限等により少ない練習機会に遅れを取り戻すべく無理な練習(量)や少々の痛みを押しての練習は決して良い結果を生まないことを指導者は認識すべきであるとする。

A-3 緊急事態宣言下における高校の授業方法に関する研究

○木村 一^{*1}、小机 滉大^{*1}、鈴木 拓杜^{*1}、蛭田 湧斗^{*1}、大木 友紀子^{*1}、
小泉 文哉^{*1}、温井 一裕^{*1}

^{*1}日本ウェルネス高等学校 東京校

キーワード:リモート授業、学力、創意工夫

【主 旨】

本件は、コロナウイルスによる緊急事態宣言が断続的に発せられる中、授業方法については短縮授業、分散登校による授業、リモートによる授業等(以下、「リモート授業等」という。)様々な取り組みがなされ、また試行錯誤が続けられた。一方、学力については緊急事態宣言前の2019年度、初のリモート授業等が実施された2020年度、リモート授業等が実施されて1年が経過した2021年度ではどのように変化したのか。また、生徒たちはリモート授業等をどう感じているのかをまとめ、今後の緊急事態宣言に備え、より充実した授業態勢について考察するものである。

【本 論】

(1) 学力の変遷

2020年緊急事態宣言下で実施された初の前期試験成績を中心に2019、2021年度の前期試験結果を比較した。また、比較検討する教科の選定基準としては、①3学年を通して共通の教科であること。②ある程度積み重ねの学習が必要であること。とし、当該条件を満たした「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」(以下、「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」という。)を選択した。また、合わせて全体の動向を把握するため、各学年の全教科の総合試験成績(以下、「総合」という。)について、平均点、標準偏差及を求め比較、分析した。

ア 各学年の試験教科は次のとおりである。

	各学年の試験教科							
一年生	英語Ⅰ	国語総合	数学Ⅰ	地理A	現代社会	化学基礎	社会と情報	保健
二年生	英語Ⅱ	現代文B	数学A	日本史A	地学基礎	生物基礎		
三年生	英語Ⅲ	国語表現		世界史A	政治経済	英語表現	家庭基礎	

イ 各学年の平均点、標準偏差等は次のとおりである。

学 年	教 科	平均点/母数			標準偏差 ^{※1}		
		2019年度	2020年度	2021年度	2019年度	2020年度	2021年度
一年生	英語Ⅰ	35.74/47	24.60/60	39.09/91	21.02	11.60	25.20
	総 合	39.00/384	20.02/461	40.95/728	27.76	11.23	26.54
二年生	英語Ⅱ	35.36/42	22.62/58	28.26/61	25.98	12.01	20.33
	総 合	38.70/269	21.87/335	35.13/379	29.08	12.09	23.20
三年生	英語Ⅲ	29.35/51	27.70/40	39.85/52	29.73	26.82	24.30
	総 合	42.34/305	44.88/226	47.44/311	31.90	32.18	29.92

※1 標準偏差の母数は、平均点の母数と同じ。

一、二年生における2020年の成績については、平均点が他の年に比べ明らかに低く、かつ標準偏差が小さい。特に、2020年に入学した生徒(一年生)の英語Ⅰ及び総合の平均点は

2019 及び 2021 年に比べ低く標準偏差も小さい。一方、三年生の成績は「英語Ⅲ」及び「総合」とも一、二年生とまったく違う傾向を示した。2019、2020 及び 2021 年を通して平均点、標準偏差とも大きな変化はない。

(2) 生徒の授業方法に対するアンケート調査結果

生徒50人に授業方法に関してアンケート調査を実施した結果次のようになった。

(1)コロナ前と同様が良い。	(2)分散授業が良い。	(3)短縮授業が良い。	(4)リモート授業が良い。	(2)と(3)の組み合わせが良い。	(2)と(4)の組み合わせが良い。	(3)と(4)の組み合わせが良い。
28%	8%	4%	30%	12%	14%	4%

結果は、登校せず自宅で学習する「リモート授業が良い。」は 30%であった。その他は、何らかの形で対面授業を希望している生徒が70%であった。また、リモート授業の方法については、zoom での授業希望者が 35%、classroom での授業希望者が 44%であった。この結果から、リモートでの授業方法については教科の内容に応じて両者を使い分けていく必要があると考える。

(3) 考 察

2020 年度は、初のリモート授業等を実施した年度であり、当初、生徒は学習(受講)要領、教員は指導の要領がつかめず暗中模索のような状態であった。加えて、生徒の生活様式は緊急事態宣言により一変、メリハリの少ない生活等により学習意欲を削がれた事も一因と考える。したがって、試験成績は低く、また皆同じような条件下であるため標準偏差も小さくなったものとする。一方、2021 年の成績は、2019 年とほぼ同等に戻った。これは、生徒、教員ともリモート授業等による学習(受講)、指導方法に習熟してきたこと、加えて生活様式にも慣れ各人が独自のペースを掴んできた事も一因として考えられる。一方、三年生は「英語Ⅲ」、「総合」とも一、二年生とまったく違う傾向を示した。データから見てもリモート授業等の影響をほとんど受けていないように見える。これは、英語を含めた他の殆どの教科の内容が一、二年生の延長線上にある、いわゆる「まとめ」としての傾向が強いことが一因として考えられる。特に英語Ⅲについては一、二年生で習った表現法や文法等を複雑化しての復習的な内容であること、社会、歴史系の教科は一年生で習う「地理A」、「現代社会」及び二年生で習う「日本史A」の内容が三年生で習う「政治・経済」、「世界史」の内容に通じていること、国語系については一年生の「国語総合」、二年生の「現代文B」に続き三年生ではこれを基本にした表現法を学ぶ「国語表現」となっていることから、全体的に自学自習がやりやすく、成績を維持できたものと考えられる。

【結 言】

成績について、2021 年度は 2019 年度並みに戻ってきたものとする。これは、生徒、職員ともに種々な状況に慣れてきたことに加え、職員が単調になりがちな授業に対し創意工夫を凝らした結果も大いに影響与えたものとする。したがって、今後も更に創意工夫を凝らし、単調な授業にならず、興味が持てるような授業を実施すれば、緊急事態宣言下においても生徒の学力(成績)は十分に確保できるものとする。

体組成計を活用した保健指導 —寮生活を送る高校生への養護教諭としての取り組み—

○齋藤 和江^{*1}、鳥居 哲夫^{*2}

^{*1} 日本ウェルネス宮城高等学校、^{*2} 日本ウェルネススポーツ大学

キーワード: 体組成、保健指導、寮生

【目的】

近年、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しており、家庭・学校・地域は食育に積極的に取り組んでいく必要がある¹⁾。

筆者の務める高校のスポーツコースに所属する生徒の内、約 6 割は寮生であり、週 6 日バランスのよい食事の提供を受けているものの、高校生アスリートの練習はハード且つ長時間に及ぶことから、補食が必要となる。しかし、その摂取方法は食知識の未熟な生徒管理になるため、嗜好品の過剰摂取やエネルギー不足による体重減少などの課題が散見した。体づくりに食知識は重要なことから、課題解決のため、生徒が興味を示す体組成結果を活用しながら保健指導を実施し、その後の生徒の意識に変化があったか調査を行い、事例の報告をする。

【方法】

1) アンケート調査: 2022 年 1 月中旬に筆者勤務の寮生活をするスポーツコースの高校生 40 名 (男子 31 名, 女子 9 名) 及び教員 3 名を対象に、アンケート調査を行った。アンケート調査は筆者作成の記名式及び選択式 (2 件法又は、4 件法及び複数選択制) による調査用紙を使用し、集計は単純集計を行った。集計に際し、不備等を除外し整合性を確認後、有効回答数は、高校生 37 名 (男子 28 名, 女子 9 名), 教員 3 名であった。

2) 倫理的配慮: 調査対象者に対し、調査の目的や調査への参加は自由であり、回答による不利益は生じないこと等を説明し同意を得た。

【結果及び考察】

1) 体組成測定への興味について

実施前の体組成計の認知率は 10.8% で、測定経験のあるものは 2.7% だった。

『体組成測定は楽しいか』の問いでは、多数回答より「まあまあ楽しい」59.5%、「とても楽しい」18.9%、「あまり楽しくない」16.2%、「まったく楽しくない」5.4%であった。

「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」を選択した生徒は合わせて約 80% いたことから、おおむね興味を示し体組成測定に臨んでいたことが示唆された。

2) 個別指導と実施後の変化

『個別指導は参考になったか』の問いでは、「まあまあ参考になった」70.3%、「とても参考になった」24.3%、「あまり参考にならなかった」5.4%、「まったく参考にならなかった」0%であった。次に、『指導後に補食の摂り方を調べたか』の問いでは「はい」が 43.2%、「いいえ」が 56.8% だった。

アンケート結果から、個別指導で「とても参考になった」と答えた生徒全員が補食をインターネットや親に確認する行動変容があったことが明らかになった。一方で、「あまり参考にならない」と答えた生徒に補食を調べた生徒はいなかった。つまり、体組成計を活用した個別指導により、適切な食行動の必要性を理解した生徒が、改善のための行動を起こしたことになる。

3) 集団指導と実施後の変化

実践した主な集団指導を二つ挙げる。一つ目は掲示物を活用した指導で、保健室前に長期間保存可能なゼリーや食品サンプルを展示し、いつでも手に取り確認できるよう常設した。また、食品サンプルを自治体より借用し菓子の摂取上限を示し掲示した。二つ目は栄養士を講師に招いた授業を年に2度程実施し、これまでに2年生は計3回、1年生は2回受講した。

指導後の生徒の意識として、『展示してあるゼリーなどの補助食品は参考になったか』の問いでは、「やや参考になった」62.2%、「とても参考になった」と「あまり参考にならない」がそれぞれ18.9%、「まったく参考にならない」0%だった。教員からは、サンプルを手にする姿や、入手元を確認する生徒がいたとの回答を得た。このことから、生徒の約80%が参考になったと答えたことや、サンプルを確認する行動から、補助食品に興味・関心を向ける生徒を確認できた。

次いで『栄養指導は参考になったか』の問いでは、「やや参考になった」75.7%、「とても参考になった」21.6%、「あまり参考にならない」2.7%、「まったくならない」0%だった。教員アンケートからは、必要な栄養素の選択や、エネルギー計算を真剣に取り組んだとの回答があった。

「まあまあ参考になった」「とても参考になった」を合わせると97.3%の生徒が参考になったと回答したことや、授業時の態度から食に関する指導の一定の成果があったと推察される。

4) 指導後の生徒の食に関する行動の変化

『体組成測定は食生活の改善のきっかけになったか』の問いで「はい」と答えた生徒は72.9%だった。「はい」と答えた生徒に具体的な内容を7項目に絞り複数回答にしたところ、上位回答は「菓子を減らした」48.1%、「プロテインなどを摂り始めた」37.0%、「清涼飲料水を減らした」29.6%だった。また、教員からは、教室で菓子を食べる生徒が減り、ゴミも大幅に減ったと一クラスから回答があり、さらに一クラスから菓子ゴミの量が減ったと回答があった。しかし、学校内限定のため、学校外での菓子の摂取は否定できないものの、菓子や清涼飲料水を減らす行動や、体に必要な栄養を摂ろうとする行動が確認できた。

【まとめ】

体組成計を使った個別の保健指導と、体組成結果を関連付けて行った集団指導は、生徒の一定の割合で行動変容があったと言える。しかし、保健教育と位置づけ指導を行ってきたものの、生徒への指導は部活動での指導や保護者の助言などの影響は否定できない。

今後、生徒の起こした行動の継続性の確認や、今回明確な行動変容が確認できなかった生徒へのアプローチなど課題は残る。

参考文献:

- 1) 千葉県教育庁学校安全保健課、「高等学校における食に関する指導」(2017)

生涯健康教育のカリキュラム開発 第1報 大学生等の健康知識習得状況

○鳥居 哲夫^{*1}、菌部 正人^{*1}、大津 一義^{*1}、山本 浩二^{*2}、松本 衣代^{*3}、
佐久間 浩美^{*4}、池田 啓一^{*5}

^{*1} 日本ウェルネススポーツ大学、^{*2} 文教大学、^{*3} 神戸女子大学、
^{*4} 了徳寺大学、^{*5} 北陸大学

キーワード: 生涯健康教育、健康知識、カリキュラム開発

【はじめに・目的】

今日の生涯学習社会では、生涯を通しての各ライフステージにおいて、誰もがいつでもどこでも学習できるシステムづくりが進められているが、on-line 化などによるハード面に比べ、ソフト面(学習内容・カリキュラムなど)の整備の遅れが指摘されている。中でも、このたびのコロナ禍においては、国からの人々への行動変容の求めに対し、健康教育への期待が増大しているものの、誤報や不安、差別などに対処し得る学習内容・カリキュラムが構築されていないことから、その期待に応えられないでいる。そこで、生涯健康教育推進委員会を立ち上げ、学校健康教育の基盤の上に生涯健康教育のカリキュラム開発を目指すことにした。その基盤となる学校健康教育については、既に公益財団法人日本学校保健会の保健学習推進委員会によって、小学校 5 年生、中学校 1 年生、高校 1 年生、高校 3 年生を対象に 2004(平成 16)年、2011(平成 22)年、2017(平成 29)年の 3 回にわたり、全国調査が実施され、健康知識テストの結果が報告されている。¹⁾

しかし、これ以降の世代において、学校で習得した知識がどの程度継続、定着しているのか、についての調査研究はなされておらず明らかでない。その手始めに、継続性、系統性の面から、高校に続く大学・専門学校(19~22 歳)を対象に、健康知識テストを活用して、どのような内容を取り入れたら良いのかのカリキュラム編成のスコープに関する基礎資料を得ることとした。

【方法】

1. 健康知識テストの実施; 2021 年 12 月に私立大学 5 校の大学生(163 人)と 3 校の専門学校生(172 人)の計 335 人(男子 143 人、女子 183 人、男女の回答なし 9 人、以下「大学生等」と称す。)に対し、健康知識テスト(高等学校の 48 問にこのたびのコロナ禍に対応させた感染症予防法 3 問を加えた 51 問を、正しい、まちがいの 3 件法)を行った。回答にあたっては、授業を活用し Google 社の Google フォームを用いて、1 人 1 回のみの回答制限を設け、担当教員の監視下のもと、正解をインターネット検索等ができない状況でオンラインにて実施、回収した。

2. 集計・分析方法; 有効回答数は、授業内での実施以外は回答者自身の知識・認識であると判断できないため、集計から除外した結果、308 人(男子 130 人、女子 169 人、男女の回答なし 9 人)である。前述の高校 3 年生の健康知識テスト 48 問(平均正答率 69.5%(標準偏差 22.6))を抽出し、大学生等との 48 問の質問ごとの正答率の比較を行った。比較にあたっては、Excel2019 を用いて対応の無い t 検定を行い、有意水準を 5%未満とした。

3. 倫理的配慮; 健康知識テスト対象者に対し、調査への参加は自由であり、回答による不利益は生じないこと等を説明し、同意を得た。また、日本ウェルネススポーツ大学倫理委員会より承認

を受けた。

【結果及び考察】

高校 3 年生と大学生等各学年の問題ごとの正答率を比較したところ 48 問すべてにおいて、有意差が認められなかった。大学生等の平均正答率は 64.3% (標準偏差 23.7) であり、前述の高校 3 年生の 69.5% より有意ではないが低かった。

小・中・高等学校では、学年末に 1 年間の学習の状況を総合的に評価して指導要録に記入しなければならない。その「各教科の学習の記録」欄の「I 観点別学習状況」では、各教科の目標に照らして、その実施状況を観点別に 3 段階(十分満足できると判断されるもの A、おおむね満足できると判断されるもの B、努力を要すると判断されるもの C) で評価することになっている。この 3 段階を適用して、大学生等の知識習得ないし定着状況を評価すると、平均正答率±標準偏差の 88% 以上の正答率の高い項目は「十分満足できると判断されるもの」であり、表 1 の 9 質問であった。

表 1 正答率 88% 以上の質問

問 5	体力と運動, 食事, 休養	問 20	覚醒剤の依存性	問 22	時刻, 天候とけがの危険性
問 24	自転車の歩道通行のルール	問 25	犯罪の起こりやすい場所	問 26	川の増水の危険性
問 34	高齢者の運動	問 35	室内での熱中症	問 37	食中毒の発生時期

これらは、高等学校での知識習得の効果が継続し生活化(生活に反映、生かされている)、定着化に結びついていることを示唆している。

逆に、40% 以下の正答率の低い項目は表 2 の 7 質問であった。これらは学習内容の定着、系統性の面で見直し改善する必要がある。

表 2 正答率 40% 以下の質問

問 8	身体器官の発達	問 15	わが国の 3 第死因	問 17	むし歯の原因
問 33	わが国の平均寿命の順位	問 39	医薬品の副作用	問 45	平均寿命の意味
問 47	わが国のがんの原因				

正答率が 40% から 88% 内の質問は「おおむね満足できると判断されるもの」となるが、保健学習推進委員会が高等学校の平均正答率 69.5% (標準偏差 22.6) を、「知識習得状況は十分とは言えない」としていることを踏まえると、平均正答率 63.0% 以下について検討を要する。

一方、コロナ禍における感染症予防法に関する 3 質問についての正答率平均が 60.6% であった。具体的には、『問 50 感染症予防と栄養、運動、休養』は 85.4%、『問 51 感染症予防と換気』が 77.9% であった。しかし『問 49 感染症予防とマスク』については 18.8% とかなり低く、メディア等からの情報に依存するだけでなく、健康教育のカリキュラムに取り入れ、意図的計画的に習得する必要がある。

【まとめ】

大学生・専門学校生を対象にした意図的計画的健康教育のカリキュラム編成に向けてのスコープの基礎資料として、健康知識の正答率が 63% 以下、さらには 40% 以下を中心に検討することが必要であることが見出された。今後、当面は対象数の拡大、48 問以外に自作した 176 項目からなる知識テストの実施等を通して、大学・専門学校のカリキュラム編成に相応しい学習内容を開発していく。

参考資料

1) 保健学習推進委員会報告書・第 3 回 全国調査の結果、平成 29 年 2 月、公益財団法人日本健康保健会

ルーム 2 (B)

一般口演 【健康・スポーツ領域】

15:25-17:10

座長 富川 力道(日本ウェルネススポーツ大学)
岩田 忠久(日本ウェルネススポーツ大学)

B-1 持続可能な開発(SDGs)と環境観

○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

B-2 東京オリンピックにおけるスポーツ選手のSNS情報発信による新しい価値の創造

○平山 弘(阪南大学)

B-3 映像から学ぶアメリカ文化学習に関する一考察

ー戦争と政治闘争を題材としてー

○平山 実(日本ウェルネススポーツ大学)

B-4 行政・大学との共同開発事業における水治療法による健康増進とその評価

○渋井 二三男(日本ウェルネススポーツ大学)

B-1

持続可能な開発(SDGs)と環境観

○角田 弘子*¹、吉野 諒三*²

*¹日本ウェルネススポーツ大学、*²同志社大学

キーワード:SDGs、日本人の国民性調査、比較可能性、継続調査

【目的】

2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。これを契機に関係省庁が連携し政府一体となった取り組みを可能にする新たな国の可能性として、持続可能な開発目標(以下SDGsと表記)が設定され、貧困、飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など地球規模の課題を解決する17の具体的な行動目標が定められ世界中の人々がその実現に取り組んでいる。SDGsの最大の課題である“誰ひとり取り残さない”社会の実現に向けて、どのような貢献が可能であるか近年の動向と合わせ報告する。

【方法】

「日本人の国民性調査」および「国際比較調査」のデータを比較分析する。「日本人の国民性調査」は、統計数理研究所が行っている統計調査の一つで、日本人のものの見方や考え方とその変化を、継続社会調査の手法によってとらえようとするものである。ここで統計調査とは統計的な無作為抽出に基づく標本に対する調査を指し、継続社会調査とは、時間をおいて基本的に同一の調査方法と調査項目で同じ調査を繰り返す方法を指す。

この調査が始まったのは、戦後間もない1953年である。その後5年ごとに調査を繰り返し、初回から数えて60年目の2013年には第13次調査を行い、2018年に第14回目の調査が実施され、今回は新たなデータを含め検討する。利用した質問は下記の2つである。

質問文

人間が幸福になるためには、

1.自然に従わなければならない。2.自然を利用しなければならない。3.自然を征服していかなければならない。(3つの選択肢から一つ選択)

環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか？

1 非常に重要である 2 重要である
3 あまり重要ではない 4 重要ではない 5 その他 6 D.K.

【結果】

図1では、自然観についての質問であるが、オランダ 20.5%、フランス 22.0%、イギリス 22.5%と欧米では、自然に従うより自然を利用するが多数となっている。一方で日本は自然に従うが1998年は36.6%、2010年は44.4%、インドは54.9%であった。

「環境の保護は、あなたにとってどれくらい重要な問題ですか」という質問項目については、「非常

に重要である」から「重要ではない」の4段階で尋ねたところ、2003年に逆転した「非常に重要」と「重要」の差がさらに広がり、環境保護を重要視する意識の相対的な低下傾向が顕著となった。「非常に重要」と答えた人は、1993年に50%あったが、2018年には31%へと20ポイント近く減少している一方、「重要」と答えた人は、1993年の43%に対して2018年では57%である。「あまり重要ではない」および「重要ではない」と答えた人は、1993年の5%に対して2018年では10%と5ポイント上昇し、1983年と同程度となった(図2)。

表1 自然と人間の関係について(%)

	自然に従う	自然を利用	自然を征服	その他・DK
オランダ 1993	20.5	64.4	1.8	13.3
オーストラリア 2012	41.3	52.7	2.6	3.4
英国 1987	22.5	67.1	4.5	5.9
シンガポール2012	50.7	42.1	4.8	2.4
イタリア 1992	66.7	24.2	4.8	4.3
日本 1998	36.6	47.9	5.3	10.2
日本 2010	44.4	46.1	5.5	4.0
米国 2010	25.1	60.8	6.1	8.0
フランス 1987	22.0	66.0	6.4	5.6
ドイツ 1987	36.8	46.6	6.7	9.9
インド 2013	54.9	37.8	6.8	0.5
韓国 2012	50.7	38.1	8.9	2.3
台湾 2011	59.3	23.4	14.2	3.1
香港 2011	42.8	36.0	14.6	6.6
上海 2011	52.0	28.9	15.5	3.6
北京 2011	52.5	28.2	18.6	0.7
ベトナム 2013	37.9	17.9	43.7	0.5

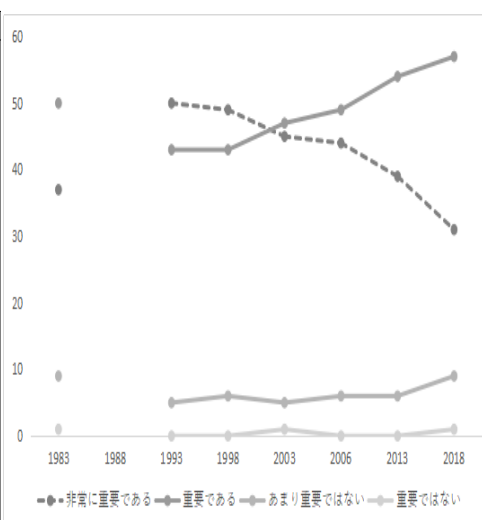


図2 環境保護(%)

【考察】

日本人の特徴を知り、国際的な相互理解のための科学的、実証的調査情報を提供することはSDGs達成のためにも必要である。今回取り上げた質問は2つのみであるが、他の質問と併せ、どのように環境保護に関しての意識が変化してきたのだろうか？という答えを探すためにも、継続調査は必要である。例えば、1998年から2003年の間に人々の意見が変化したことが図2の結果から明らかであるが、その理由は様々な統計や世の中の動向を踏まえて考察しなければならない。統計がない場合は比較が不可能である。

一方、表1にあるように1998年の日本を見ると自然を利用するが47.9%となっており、自然保護より開発や利便性が優先されているかもしれないということがわかる。この調査はどのようにデータがとられているのか、またその質問の内容は時代にあったものなのか？などを勘案し、調査結果を読み解いていかなければならない。計画もなく、集積された情報から重大な決定などに至らぬよう、国民が調査に協力的な姿勢をみせ、データを使用する側は、意見の重みを感じながら調査結果を扱うべきであろう。安全・安心で持続可能な社会を実現するためにも、多様な主体が補完し合い、それぞれが役割を發揮しやすい環境を作り出すことが不可欠であると考える。

参考資料

統計数理研究所ホームページ <https://www.ism.ac.jp/>

B-2 東京オリンピックにおけるスポーツ選手のSNS情報発信による新しい価値の創造

○平山 弘*¹

*¹ 阪南大学

キーワード: SNS、プラットフォーム、価値の創造

【目的】

新型コロナ感染拡大の下、開催された東京オリンピック・パラリンピック。これまで選手村の詳細は既存の報道関係者による紹介が中心であったが、近年の Instagram などの SNS の発展により、選手やその関係者自身が自らを情報の発信者として、普段は見ることができない価値ある瞬間、食事メニュー、コンビニ愛などの情報を提供していた。こうした情報価値はスポーツ選手による新しい価値創造の場であると捉える視点が必要であろう。

本研究の目的は新型コロナウイルス対策の一環としての選手村へのマスコミによる取材が厳しい状況下において、これまでになかったスポーツ選手自身や関係者が自らの意思で「Instagram」「Facebook」「TikTok」「YouTube」「twitter」などの SNS による情報発信がオリンピックゲーム会場以外での場で行われ、世界中の人々に新たな価値を提示したことになり、このような動きに対してマーケティング及び情報価値の観点から明らかにしたい。

【方法】 東京オリンピック開催期間中に選手や関係者から情報発信されたものをベースに、またこれらの情報を収集・紹介した web を情報価値というプラットフォームに落とし込むことで、新たなブランド価値創造のかたちを可視化する方向で考える。

【結果】 既存のマスコミによる取材情報と選手・関係者からの情報発信による関係性は以下の図で示されることになる。

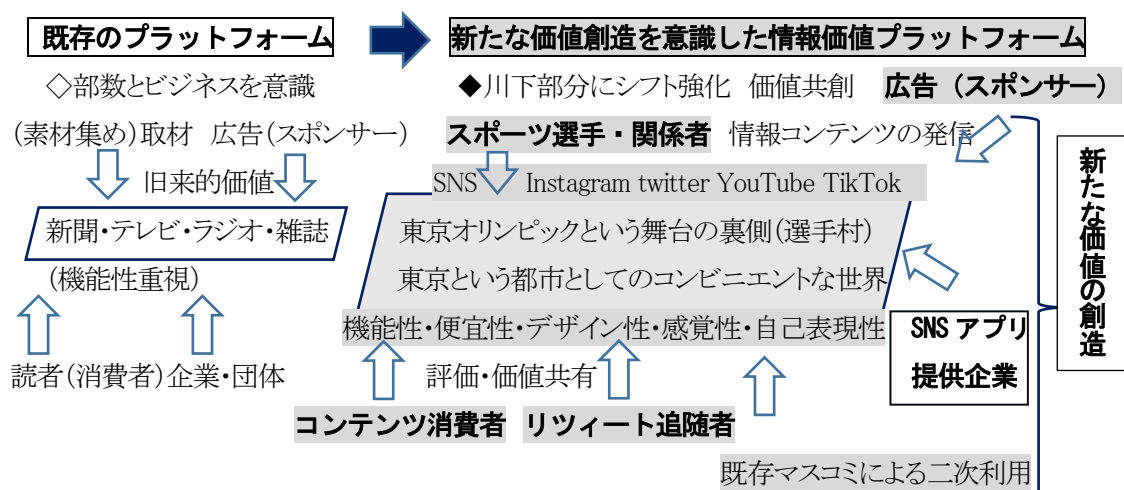


図1 新たなブランド価値創造を意識したプラットフォーム (出所:筆者作成)

【考察】既存のプラットフォームにおいては新聞・雑誌・テレビ・ラジオに代表されるマスコミによって、これまではオリンピックゲーム種目の中継放送や競技結果の報道、特集などが組み立てられてきたが、今回の東京オリンピック2020では、選手村での選手の動きや食事風景、選手宿舎からの夕焼けやビートルズのレコードジャケットを意識した横断歩道を渡る選手たちの姿といった多数の貴重な内部映像・写真が彼ら選手の多くから情報発信がおこなわれ、一般の人々や消費者にとっては無縁な世界の様子が一気に可視化されたということは非常に画期的なことであるといえる。

これは選手の持つ感性やデザインセンスがその映像や写真を通して世界中の人々のハートや精神に共鳴を呼び起こすなど、既存の放映スタイルのオリンピックゲームでの競技によるリアル面での感動シーンだけではなく、試合前→試合中→試合後も見るものを特別なストーリー性あふれる世界にいざなうという意味で、これはマーケティングの世界から言えば、「経験価値マーケティング¹」の提供ということになる。

図1はそうした「東京オリンピックという舞台の裏側」と「東京という都市としてのコンビニエントな世界」という「新たなプラットフォーム」の登場ということになり、そこではスポーツ選手やその関係者が日々の日常＝消費者からすれば選手の内側を垣間見ることができるという非日常性の可視化につながり、そのコンテンツ内容を見たものたちがリツイートして、さらなるプラットフォームの拡大に直結し、どちらの側にとっても WinWin の関係性を共創しているということになる。選手においてはプロスポーツの競技もあればそうでない競技もあるため、場合によってはその何万、何十万、何百万 View がされたり、数多くの「いいね！」がつけば、それに応じて広告関係の取り決めにより収益として入ってくることから、外部資金をクラウドで集める方式のような障壁ほど高くはなく、自然な普段着使いの態度や雰囲気での投稿へのチャレンジができるというメリットが存在している。

また、既存のプラットフォームでマスコミを使って広告を出稿していた広告スポンサーも新たなプラットフォーム＝SNS の重要性に気づき、こちらにも広告をシフトしている。特にこうしたプラットフォームを所有し、そのコンテンツやアプリを提供している SNS 企業においては、誰もが投稿者＝情報発信者になれるという面からの機能性・便宜性の改善や新たなサービスの充実に動き、そのデザイン性も加味され、一方消費者やコンテンツ投稿者も感覚性の磨き具合を加速し、より洗練された自己表現性の高いコンテンツ内容の実現に向けて進化かつ深化させていくと考えられるだろう。

【まとめ】東京オリンピックにおいては選手やその関係者が彼らの感性やデザイン性によって SNS を使用した情報発信がおこなわれたということは新たな場の創造でもあり、かつこれまでにあまり着目されてこなかった「新たな情報価値プラットフォーム」の登場ということになる。

今後はこうしたオリンピックやワールドカップでの大舞台での SNS を使用した新しい情報価値の提供とそれをコンテンツとして消費し、リツイートすることで、選手もそれを応援する人々や一般の人々にも価値の共有が可能になるという意味で、スポーツとの関わり方にも影響を与え、結果としてのスポーツ市場全体の底上げを図るよりよき方向性を示したと考える。

【謝辞】本研究は 2021 年度阪南大学産業経済研究所助成研究(C)の研究成果の一部である。

¹ Schmitt, B.H. (1999) , *Experiential Marketing*, The Free Press.

B-3 映像から学ぶアメリカ文化学習に関する一考察 —戦争と政治闘争を題材として—

○平山 実^{*1}

^{*1} 日本ウェルネススポーツ大学

キーワード:アメリカ文化、映像教育、政治軍事史

【目的】

文化の学習において、単に文献主体の解説や文献輪読だけでは、その本質を捉えきれない。なぜなら如何に学術的に精緻にデータ収集や分析が実施されたテキストや論文等では、知識は習得できても実感は湧かない。文化を知るためには、そのサークルに入り、内部から、観察して、体感的に情報を取得、分析するのが、望ましい。そこで、人間の本質を曝け出す戦争や政治闘争の事実に沿った映画を学生に見せて、リアクションペーパー等を提出させ、アメリカ文化の習得度を明らかにして、本手法の効果を確認する。

【方法】

対象となる学習者は、歴史や政治の知識、とりわけ戦争や政治闘争の知識は、少ない。そこで、最初に対象となる戦争や政治闘争の基礎知識の解説を行い、それぞれの映像を見せて、そのあとリアクションペーパー・期末レポートを提出させ、文化の把握度を「見える化」した。更に毎授業終了時に補足解説を加えて、理解を深めさせた。

対象者: 本学の全日制「海外文化論」受講者 84 名 「国際論」受講者 53 名

対象物: 学生の提出したリアクションペーパー・期末レポート

分析: 文化的側面を有するレポート中の文章または言語を抽出し、帰納的にカテゴライズ

※文化的側面: 「価値観」「習慣」「伝統」「習慣」「行動様式」等

【結果】

学生は、それぞれが、認識したアメリカ文化について、文章化する参加型の学習が、できた。そして、普遍的な文化やアメリカ独自の文化を多面的に把握していたことが確認できた。これにより、本手法の効果が確認できた。

以下リアクションペーパー等に記載された文化に関連したキーワード例を列挙する。

「風と共に去りぬ」: 正義と犠牲、南北文化、家族愛、理想と現実、内戦の残虐性等

「トラトラトラ」: 戦時における油断、上層部と現場の認識相違、愛国心と任務意識等

「ディアハンター」: ロシア系アメリカ人の結婚風景、戦死者の追悼、PTSD等

「JFK」: 正義と政治の関係、国家機密、職務意識と家族愛、政治の主体等

「アメリカン・スナイパー」: 家族愛と愛国心、マッチョ意識、無常感、PTSD等

キーワードをカテゴライズすると、出身地文化の継続性、強い愛国心・郷土愛、正義と政治、任務と家族愛のバランスの困難性、戦争の身体的・心理的影響が確認できた。

【考察】

文化は、国民や民族の価値観、伝統、習慣、行動様式等の総体である。今回の映像教育から、学生が、文献情報の何百倍の情報量を体感し、映像を通じて追体験し、実際的なアメリカ文化を習得できたことを確認できた。また映像授業は、効果的であることも確認できた。

【まとめ】

映像教育は、以上のように利用価値は、高い。各国の文化も以上の方法で、学べる。特に戦争史や政治闘争史は、人間の本性を曝け出すので、文化を見る上では、最適である。また歴史や文化の習得は、単なる知識の羅列では、理解し難く、史実に沿った映画のように物語から入る方が、効果的である。今後もより効果的な映像教育の研究と実践を実施する所存である。

【資料】

○使用した映画(DVD)

南北戦争:『風と共に去りぬ』1939年、アメリカ、ファーストミュージック株式会社

太平洋戦争(真珠湾奇襲):『トラトラトラ』1970年、アメリカ・日本合作、KADOKAWA

ベトナム戦争:『ディアハンター』1978年、アメリカ、NBCユニバーサル

ケネディ暗殺:『JFK』1991年、アメリカ、20世紀フォックスホームエンターテイメント

イラク戦争:『アメリカン・スナイパー』2014年、アメリカ、ワーナーブラザーズ・ホームエンターテイメント

以上

B-4 行政・大学との共同開発事業における水治療法による健康増進とその評価

○渋井二三男*¹

*¹日本ウェルネススポーツ大学

キーワード:水治療法、e-learning システム、健康評価

[はじめに]

平成 15 年より水治療法の研究、開発を実施しているが、平成 20 年度に坂戸市より行政・大学連携地域創造助成事業の委託を受けた(埼玉新聞)。

この目的は、広く市民に健康増進を啓蒙・指導するために、水治療法による高齢者、障害者を対象とした可視化した新 e-learning システムの開発や水治療法講座の開設、水治療法士養成制度の確立である。今回は、可視化した e-learning システムの開発に視点を当て、高齢者、障害者を対象として、プール水中歩行による健康増進指導を対面と e-learning により行い、健康評価を実施した結果、有用な基礎資料を得られたので報告する。

[研究方法]

- 1) 研究体制:坂戸市行政職員(保健師 2 人・看護師 2 人、専従職員 3 人)、城西大教員 2 人、日本医療科学大学 2 人、日本水治療法協会 3 人から構成。
- 2) 研究期間;平成 15 年-29 年
- 3) 水中指導:(1) 対象;温水水中訓練に入る受講者全員約 20-30 人/日。
(2) 場所;城西大学、および体育館、温水プール、坂戸市健康増進部施設プール。
(3) 指導の手順;温水プールに入る前に、リスク回避健康事前問診毎回全員受診。被験者を毎受講ごとに、高齢者、障害者、健常者の 3 つのグループにわけ、それぞれのグループに図 1 に示した水中指導を対面と e-learning によって行う。
- 4) 健康評価;温水プール水治療法運動後、全員、坂戸市医師部、日本科学医療大医師の協力により、血圧、血糖値、高脂血症値、ヘモグロビン、骨量、内臓脂肪等の健康データを毎回測定。

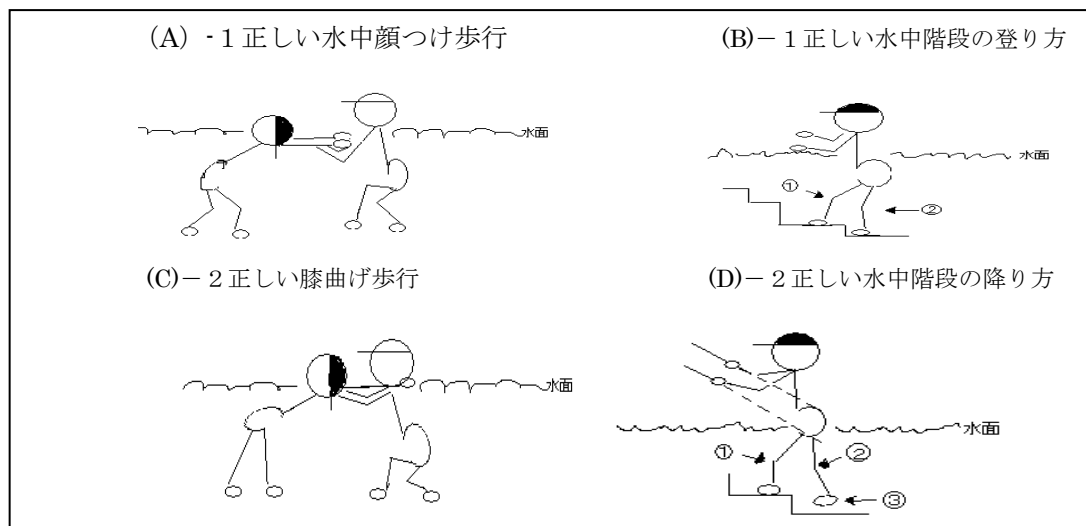


図1 プール水中歩行による健康増進指導(対面とe-learningによる指導)

[結果、考察およびまとめ]

図2は健康データのうち、被験者1人(男性、78才)について、約2年間、血圧、血糖、の測定結果の一部である。血糖値(mg/dl)改善傾向あり、血圧(mmHg)は改善傾向少ないことがわかる。紙面の関係で記すことができなかったが、多人数の被験者の健康データ(性別、年齢、身長、体重、体脂肪率、内臓脂肪、骨量、基礎代謝、筋肉、水分量)も採取済みであり、健康評価は改善傾向にあることから、プール水中歩行による健康増進指導の療法の有効であることを示唆している。

[今後の課題]

水治療法の成果は水中療法講座オンライン、対面講義の実施、水治療士の輩出。30分間“リハビリ応援団”NHK番組(平成20年7月20日)、他民放番組の放映へと波及した。NPO法人 日本水治療法協会の協力・指導を得て、全被験者のデジタルデータ化のためのヘルスデータセンター構想を坂戸市行政に提案中である。

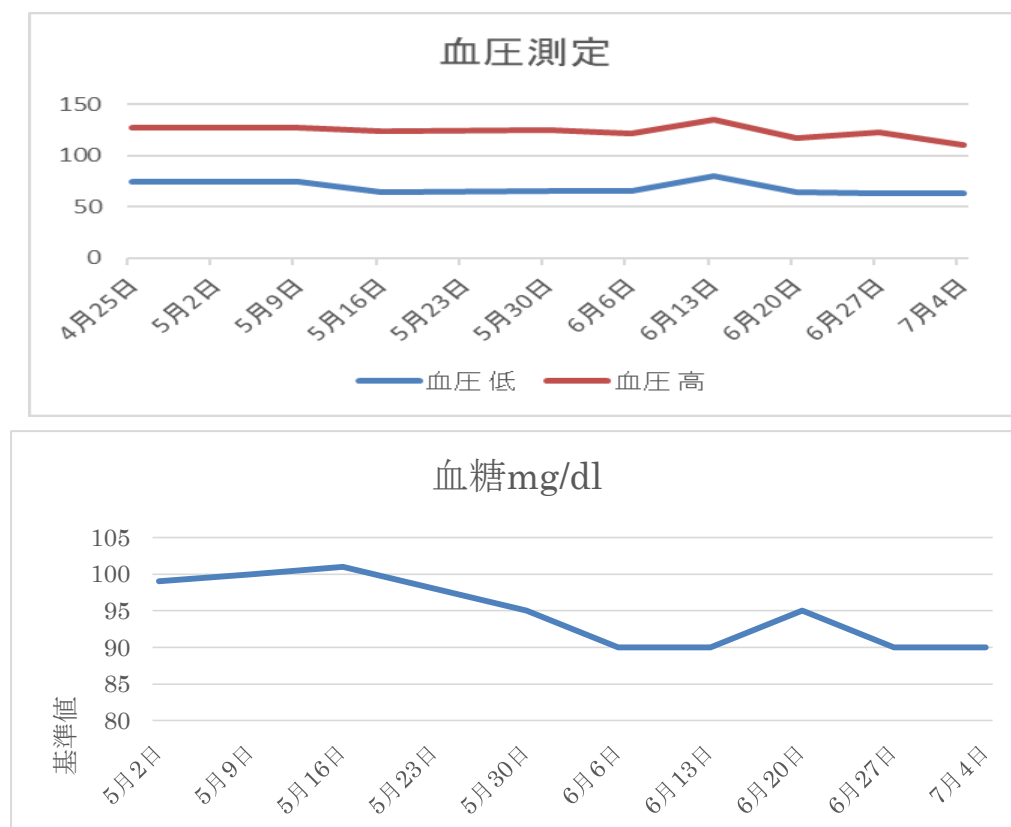


図 2 健康データ評価

[謝辞] 本研究は埼玉県坂戸市から平成20年度行政・大学連携地域創造助成事業として、委託を受け市民の健康増進のための水治療法の研究開発・啓蒙をはかるものである。この紙面を借り、ご指導いただいた水野加寿氏(城西大学)関係各位に深謝もうしあげる。

第8回 学術大会 役員

理事長：柴岡 三千夫（日本ウェルネススポーツ大学 学長）

大会長：柴岡 信一郎（日本ウェルネススポーツ大学 副学長）

組織・実行委員会：組織委員長 大津 一義（日本ウェルネススポーツ大学）
実行委員長 藺部 正人（日本ウェルネススポーツ大学）
事務局長 鳥居 哲夫（日本ウェルネススポーツ大学）
講演集編集委員長 横山 典子（日本ウェルネススポーツ大学）

委員：上原 章夫（日本ウェルネススポーツ大学）
石田 良恵（日本ウェルネススポーツ大学）
渋井 二三男（日本ウェルネススポーツ大学）
鈴木 勝彦（日本ウェルネススポーツ大学）
近藤 卓（日本ウェルネススポーツ大学）
鈴木 隆広（日本ウェルネススポーツ大学）
角田 弘子（日本ウェルネススポーツ大学）
山口 智之（日本ウェルネススポーツ大学）
富川 力道（日本ウェルネススポーツ大学）
岩田 忠久（日本ウェルネススポーツ大学）
平山 実（日本ウェルネススポーツ大学）
川又 隆一郎（日本ウェルネススポーツ大学東京）
中宿 晃（日本ウェルネススポーツ大学東京）
木元 翔一（日本ウェルネススポーツ大学東京）
杉町 マハウ（日本ウェルネススポーツ大学東京）
鈴木 拓杜（日本ウェルネス高等学校 東京校）
温井 一裕（日本ウェルネス高等学校 神保町キャンパス）
木村 一（日本ウェルネス高等学校 東京校）
齋藤 和江（日本ウェルネス宮城高等学校）
赤尾 育愛（学校法人タイケン学園企画情報課）

（敬称略、順不同）

一般社団法人 日本健康・スポーツ教育学会 第 8 回 学術大会 講演集

発 行 行:令和 4 年 2 月 27 日

発 行 責 任 者:柴岡 三千夫

編 集 責 任 者:大津 一義

委 員 長:横山 典子

委 員 : 藺部 正人、鳥居 哲夫、石田 良恵、近藤 卓、上原 章夫、
川又 隆一郎、赤尾 育愛

発 行 所:一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会 第 8 回学術大会 事務局

〒179-0071 東京都練馬区旭町 3-23-22

日本ウェルネススポーツ大学東京 内

TEL:03-3938-2372 FAX:03-3938-9435

E-mail:info@jhse.jp 公式 HP: <http://www.jhse.jp/>